

現状から見える里親の認識と実現に向けたフォスタリング支援機関での支援

公益財団法人 全国里親会
評議員 吉田 菜穂子

		現状から見える里親側の認識・里親の声
課題	里親による要保護児童養育の課題	① 委託に必要な里親の数が絶対的に不足、里親の力量には格差が大きいため、特に経験の浅い里親に対する研修（質の向上に資するため）が必要。 フォスタリング機関に研修を依頼するならば、里親が求める研修の実施ができるかどうかにか鍵がある。
		② 担当の児相職員や、里親支援専門相談員の力量に格差があり、里親支援になっていないとの不満も多い。ベテランの里親家庭あるいはファミリーホームに宿泊研修に行くなどして一時保護所では見せない素の子ども達の顔を見ていただきたい。そのうえで、実効性のある研修を企画していただきたい。
		③ 里親支援は、児相よりも、施設よりも、里親の立場に立ちながらも、中立性を持った人にしてほしいとの声が多数ある。
		④ 養育里親による要保護児童である子どもの養育と、養子縁組里親・養親による元要保護児童であった子どもの養育では支援内容が異なる。それぞれが抱える問題や課題を共に解決していこうという意欲のある人が望ましい。
		⑤ 補助者がいるファミリーホームと違い、里親家庭は人の出入りが少ないので、密室化しやすい。支援する人（フォスタリング機関の職員）には頻繁に出入してもらおうと、子どもの問題行動の頻度も減るし、里親も話がしやすくなると思われる。
養育支援	チーム養育の形	① 里親への十分な説明のないまま措置解除、措置変更が行われているのではとの疑問の声が上がっている。児相、施設などと並んで里親も、要保護児童と呼ばれる子どもたちとその保護者を支えていることを、里親自身も自覚が必要であるが、児相をはじめとした支援機関も里親を軽んじているのではとの声も聞こえてくるので、里親の意見を聞くなどの姿勢を表して頂きたい。

		<p>② 里親は預かっている子どもと、その実家庭を支援する立場だと思いが、実際は支援される側との扱いなのか、立ち位置が不明瞭。</p> <p>③ ベテラン里親と経験の浅い里親とでは、力量に歴然とした差があるので、フォスタリング機関にベテラン里親や、元里親を登用するなどの思い切った施策が必要と思われる。</p>
		<p>④ チーム養育として子どもを育み、見守るという里親の養育を支援するために、児童相談所だけでなく児童養護施設や乳児院、民間の里親支援機関（フォスタリング機関）、里親が相互に支援しあう里親会や自助グループなどの当事者団体が、里親家庭とそこで生活する里子や実子に対して、ともに支え、養育するという形をとることが必要と思われる。</p>
		<p>⑤ 子どもの担当だった元いた施設の先生に、里親委託後も定期的に訪問してほしいなど、養育の連続性を望む声も多い。</p>
	里親会活動・自助活動の独自性	<p>① 公的な里親支援は、あくまでも社会的養護の子どもを養育する里親のために、どうすればうまく養育できるかという、子どもの福祉に沿った養育技術に主眼を置いた里親養育を支援するものであり、その意味では、チーム養育としての里親養育を支援する大変重要なものとする。しかし、実際の支援はそれだけでは事足りず、里親当事者相互による支援を行うことによって、里親の内面、心情に対して、支援機関では支援できない「心の支援」を担う。</p> <p>② 里親になりたての頃は、里親特有の悩みを解決するために、同じ里親の立場のアドバイスが大変貴重。一般の友人ではわかってもらえない、血縁のない子ども特有の問題や、親族のことなどは、里親経験者でしか理解してもらえないことも多い。また、児童相談所などの措置権を持つ人には言いにくい。仮にフォスタリング機関が里親を決定するようになれば、決定する側には言いにくい。</p> <p>現在、里子の子どもたちに関する問題や、いろいろな悩みの問題解決の糸口として、サロンや里親会活動を利用している。</p>
地域に対する対応	リクルート	<p>① 「地域で、里親のことを発信する機会があったらいいなと思う」「里親を開拓は行政の仕事であって、里親の仕事ではない。しかし、里親として生の声も届けたい」「幼稚園や保育所等で、里親制度の話をしたらどうか。里親としても協力したい」などの声が上がっている。</p> <p>② リクルートするには、企画力と実行力が必要だと考える。里親にスーパーなどに立たせてリクルートするなどは時代遅れと言わざるを得ない。</p>

		<p>地域の里親会でチラシ配りをしましよと誘っても、勤務時間外と言って動かない児相職員も多かったのが実情。里親のリクルートをなぜ里親の自助努力を求められるのか疑問があったが、それでも、子育て中の里親が市役所やスーパーに立ってチラシを配布してきた。里親にも子どもにもチラシ配りは苦痛だったという声も多い。思春期の子どもは、里親家庭に預けられているのが友だちにわかるので、スーパーとかで立ってほしくないそうだ。</p> <p>リクルートは、率先して実行できる職員の腰の軽さが要求される。</p>
	<p>地域・学校との連携</p>	<p>① 「民生委員・児童委員さんでも、里親のことをよくわかっていない人が多い」「学校の先生の中には、里親家庭のことを知らない先生が多いので、理解を深めていただきたい」「専門のはずの社会福祉学科の学生でもよく理解していないのではないかと思う。」との声が上がっている。</p> <p>今後、家庭福祉の専門家を養成するには、福祉関係の学科や、保育士、教職課程で社会的養護の中でも、特に里親制度の項目をとって、理解を深め、正しく国民に周知して、里親制度の普及に努めていただきたい。</p> <p>② 地域の民生委員の高齢化が進み、また、小中学校での PTA の活動も減少する中、里親家庭を見守ってもらうためには、地域学校との懸け橋となって活動する支援組織（フォスタリング機関の職員の仕事）が必要ではないか。</p> <p>③ 里親の多くが、個人的に、友人や知人、地域の人の助けを借りているのが現状である。</p> <p>管轄の交番や、警察署の少年課や、生活安全課との連携がますます重要となってくると考えられる。そういったこともフォスタリング機関が担っていただけたらありがたい。</p>
<p>権利擁護</p>	<p>情報の開示</p>	<p>① 実親家庭に関する情報・前の施設での育ちの様子など、子どものこれまでの成育歴・養育上の課題に関する資料の開示が必要ではないかと思われる。</p> <p>また、子どもの幼少時記録の長期保存など、フォスタリング機関一括管理することが必要になるだろう。本人の求めに応じて、いつでも開示できるようなシステムが必要と思う。</p> <p>② 児童相談所に保護された理由や、今後の見通しに関する情報の開示は、守秘義務が強調されるあまり、里親へは情報の開示が進んでいないのが実情である。現在児童相談所は、里親の意見を聞いて児童自立支援計画票を作成するようになっているが、まだまだのよう</p>

		あるが、フォスタリング機関が作成するようになれば、情報の開示が進むのではないかと考える。
	児童の権利	<p>① 「同一の文化、宗教」に関して配慮した委託が行われているとは言い難い。里子のルーツを考えると、外国籍の子どもも増えているので、文化・宗教に対する配慮が、必要になってくるのではと思う。フォスタリング機関の職員には、そういった知識も重要ではないか。</p> <p>② 児童養護施設とは違って、里親家庭においては、子どもに配布する権利ノートより、フォスタリング機関の職員が、里親家庭に訪問して、里親子と一緒に学習する「子どもの権利についての学習ノート」のようなものが必要ではないか。思春期の児童は、そういった人と会うことを拒否する場合も多いと考えられるので、里親が子どもの権利擁護に努めるように、意識改革する必要がある。</p> <p>③ 措置が解除される時期になると実親の主張と、子どもの希望が相違することも多い。フォスタリング機関が関与する場合は、職員には、子どもの希望を伝え、実親との調整する力が必要と考えられる。</p> <p>④ 子どもたちに対して、担当となった職員には、一貫して担当であって頂きたいし、担当の児童相談所のケースワーカーや、フォスタリング機関の職員から、子どもの権利について記した手紙をかいてもらい、担当者が自ら渡すなどの工夫をする必要があろう。</p>
子どもの対応	問題行動への対応	<p>① 「里子は突然問題行動を起こしてしまうので、里親として、緊急にSOSを出したい時がある。なんとか連絡が取れるような体制だけは作ってほしい」という声も多い。また、「児相の担当者の携帯電話ぐらい教えてほしいが、できないのだろうか。せめて緊急用の里親専用ダイヤルが欲しい」という声も聞く。民間のフォスタリング機関なら可能であろうか。</p> <p>② 個別的な支援を必要とする子どものなかでも、特に、虐待を受けた子どもや障害等がある子ども、コミュニケーション能力に問題があり集団生活に不応を起こす子ども、非行の問題がある子どもが委託されている専門里親やファミリーホームの養育者が安心して相談助言を受けることができる、より高度な専門性を身に着けたフォスタリング機関の職員の配置をお願いしたい。</p> <p>③ 一般の里親に対して委託される子どもは、マナーを教えることも必要ですが、その前に、していいことと悪いことの区別を教えること</p>

		<p>から始めなければならない子どもも多いので、親子プログラムなどの提示や指導をするのも効果的ではと思う。</p> <p>家庭福祉の専門家を養成する課程があれば、親子の新たな絆の構築に対する有用なプログラムがあればと考える。</p>
		<p>④ ベテランの里親に多い悩みは、SNS やスマホなどの知識と対策についてであるが、里親はどうしても年齢層が高いですので、フォスタリング機関の職員にスマホ、パソコン、WEB 等の IT 関連対策や子どもたちへのパソコン、スマホの危険性などについての指導をお願いできたらと思う。</p>
		<p>⑤ 実際の問題として、思ってもみなかった問題が忘れたところに、思いもよらぬ形で、突然に降りかかってくる。そういった際（例えば、10 年後でも）、即座に相談に乗ってくれる体制と、的確な回答があればありがたい。</p>
	自立支援	<p>① 高校卒業後の自立支援事業が、実際に使える制度になっているかの検証が必要だと思う。（貸付事業では、2 年間の就労継続後に返還免除になるなど、社会的養護の子どもにはハードルが高すぎるなどの理由で利用をためらう例が多い）</p>
		<p>② 一度自立して里親家庭を巣立った後、再度戻ってくる子どもに対しては、里親のボランティアに頼っているのが実情である。フォスタリング機関でも、支援してもらえないだろうか、検討していただきたい。</p>
縁組 組 対 応	養子縁組 に対する 支援	<p>① 特別養子縁組が終了した後の縁組里親と子どもに対して、特別なフォローがないので、きめ細かな相談体制を確立して頂きたい。</p>
		<p>② 養子縁組後、養親が最も支援が必要と思う思春期になってから支援してもらえるのかが疑問。これまでは、里親登録を残し研修等に参加、あるいは、里親会や自助グループでケアしてきたが、こういった形で、フォスタリング機関がかかわるのか明確にすることが必要では。そもそも本当に、縁組終了後、10 年、20 年たった段階での支援ができるのであろうか。フォスタリング機関がずっと存続するという保証がないと厳しいとも考える。</p>
		<p>③ 特に出産していない事実を子どもに伝える「真実告知」や、子どもの「出自を知る権利」の保障、思春期特有の問題行動に対する支援はもとより、家庭裁判所との連携や養子縁組あっせん団体との連携協力などをフォスタリング機関に担っていただき、きめ細かな対応</p>

		<p>ができればそれに越したことはないのだが可能だろうか。</p> <p>④ 子どもの出産と委託に至った情報の管理や、養子となった後の子どもに関する情報、生みの親との関係など課題は山積する。 生みの親に会いたいと子どもが望んだ場合、生みの親や親族との折衝などフォスタリング機関が専門家として支援してもらえないだろうか。</p>
里親家庭への支援	養育中の里親への支援	<p>⑤ 里親への支援は、里親を支援する人にかかわる質的問題と、実際の問題解決のための相談体制の整備が柱である。</p> <p>⑥ 現状は「互いに子どもを養育している最中とはわかっていても、長電話をする」ことで、里親相互に心の支援をしている。里親の養育を支援するためには、車の両輪のように、子どもの養育への支援と、里親自身への、いわば心の支援をどのようにしていくかが最大の課題である。 里子の養育において、里親に寄りそう支援者には、里親の心情を理解できる人であることが重要。</p> <p>⑦ 人的な希望としては、具体的に「里子の子育てについて、きれいごとや理想でなく、本音で話してくれる人が欲しい」「人生経験のある人に寄り添って欲しい」「夫婦の機微や、親戚づきあいなど、家庭ならではのことを聞いて欲しいし、わかって欲しい」「子どもが乳幼児だったころから成人するまで一貫して同じ人に支援してほしい」などの要望があがっている。 フォスタリング機関の若い職員では難しいのではないか。里子への相談支援はフォスタリング機関の職員という方法もあると思えるが、家庭生活の悩みが深い里親への支援は、当事者でなければ困難と考える経験豊富な里親も多い。</p> <p>⑧ 「経験豊かな職員や、里子養育のベテラン里親に、里親担当として、寄り添ってほしい」「土日や夜間などの児童相談所が休みの時に、すぐに対応してくれるようなシステムが欲しい」「その時おこった問題をすぐに解決するために、緊急の里親専用ダイヤルがほしい」など、切羽詰まったときの対応、問題の即時解決を望む相談体制の整備や充実が必要。</p>
	実子への支援	<p>① 養育里親の増加とともに、実子を抱える里親が増えてきた。そんな里親の悩みの一つに、「実子の支援ができないものか。社会的養護の子どもは色々相談できるが、実子に対しては、何のフォローもな</p>

		<p>いので、里親家庭にいる実子に対しても、同じように支援してほしいと思うことがある」との声が聞こえる。</p>
		<p>② 里親委託では、里親と委託される子ども（里子）のことが中心になり、どうしても、実子のことは後回しになっている。里親は、里子には目が行くが、実子のことがおろそかになるからです。実子の立ち位置の重要性を認識してほしいし、そういった意味で、フォスターリング機関の職員には実子を支援対象に入れていただきたい。</p>